

後向き観察研究

「術後再建腸管に対するショートタイプダブルバルーン内視鏡を用いた

イーアールシーピー

ERCP 関連手技の有用性に関する研究」

情報公開文書

2020年1月6日 第1版作成

札幌医科大学医学部 消化器内科学講座

1. はじめに

術後再建腸管症例に対する内視鏡的逆行性胆管膵管造影(^{イーアールシービー} ERCP)は、乳頭や吻合部までの到達やデバイスの挿入において、通常の ERCP と比べ難易度が高く、以前は経皮的アプローチや外科的手術により治療されることが少なくありませんでした。近年、小腸疾患の診断・治療目的に開発されたダブルバルーン内視鏡(^{ダブルバルーンエンドスコープ} double balloon endoscope: DBE)を応用することで、術後再建腸管を有する胆膵疾患に対する内視鏡的アプローチが可能となり、DBE を用いた ERCP(^{ディービーイーアールシービー} DB-ERCP)の報告がなされるようになってきました。当院ではショートタイプ型の DBE を導入し、DB-ERCP を行なっています。DB-ERCP については、手技の難易度は依然として高く、再建術式や処置内容によっても成功率に幅があり、成功率の向上のために様々な工夫が試みられています。本研究では、当科でのDB-ERCP の成績を後方視的に振り返り、処置の成功率の向上につながる因子について明らかにすることを目的としています。

2. 対象となる患者さん

2011年1月1日から2019年11月30日までの期間に、札幌医科大学附属病院消化器内科において、DB-ERCPを受けた患者さん(約100例)を対象としています。

3. この研究の内容

診療録(カルテ)から患者さんの性別や年齢、臨床診断、再建術式、DB-ERCPの処置内容などの情報を収集し、研究に用います。研究は札幌医科大学消化器内科学講座で行います。なお、この研究を行うことで患者さんに費用などの負担は生じません。

4. 個人情報の取扱いについて

本研究では個人情報の保護のため、個人を特定できる情報は収集せず、データの数字化やデータファイルの暗号化などの厳格な対策を取っています。また、本研究の結果を公表（学会や論文等）する際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。

5. この研究に診療データを提供したくない場合の措置について

2011年1月1日から2019年11月30日までの期間に札幌医科大学附属病院において診断と治療を受けた患者さんのなかで、この研究に診療情報を提供したくない方は、下記の間い合わせ先までご連絡ください。ただし、あなたからご連絡をいただいた時点ですでに、研究結果が論文などに公表されている場合や、研究データの解析が終了している場合には、解析結果等からあなたに関するデータを取り除くことができず、研究参加を取りやめることができなくなります。

6. 研究期間について

病院長の承認日から2020年12月31日までの期間を予定しています。

7. 医学上の貢献

本研究によって、DB-ERCPの検査・治療成績の向上に役立ち、術後再建腸管症例における胆膵疾患の診断・治療をより円滑に行えることが期待できます。研究に参加して頂いたみなさんはそれに貢献したことになります。

8. 問い合わせ先

研究責任者 札幌医科大学 総合診療科兼任消化器内科 助教 本谷 雅代

研究分担者 札幌医科大学 消化器内科 助教 石上 敬介

札幌医科大学 消化器内科 助教 榎木 喜晴

札幌医科大学 消化器内科 診療医 伊東 文子

札幌医科大学 消化器内科 診療医 我妻 康平

連絡先 電話：011-611-2111（内線 32110）教室

対応時間 平日 9～17時（平日日中のみの対応となります）